

QASG ニュース

99



品質保証研究会
Quality Assurance Study Group

2021・5

内容

I. 巻頭言「変わりつつある社会とともに歩み続ける」

II. 令和2年度定例研究会・各グループ活動実績

(*2020年度はコロナ禍の為、見学会および講演会は実施しなかった)

編集後記

I. 巻頭言 「変わりつつある社会とともに歩み続ける」



副会長 武田博文

超少子高齢化が進む中、長屋生活及び向こう三軒両隣等、人との繋がりで成り立っていた地域社会から個人や人と接することを避ける個人社会化が進み、毎年3万人とも言われている孤独死、社会との「関係性の希薄さ」がもたらす無縁社会はこれからも勢いが止まらない大きな課題と捉えている。その一方で、2025年には「4人に1人が75歳以上」という超高齢化社会を迎えるが、その過程で大量(2200万人)の「会社との縁がきれた(定年退職者)」無縁予備軍が社会に放出される。小職も、その予備軍の立派な一員である。

企業として、定年・雇用延長制度の拡充や、社会としてもまだまだ働ける60歳代を対象に、経験値のAI化等での活用、労働力不足の補充、過疎地域での地方創生活動等新たな活躍の場の提供等、無縁社会を克服する超高齢化社会の基盤を構築させる施策が講じられていくものと考え。しかし、人は、結果的には一人では生きていけないものであり、それを補うものがコミュニティとの認識がある。

東京の下町で育った小職にとって人一倍感じるものであり、意思を分かち合う、同じ意思のある者同士共感する等で集い相互援助により、自身の持続的成長に繋がる場が存在し続ける必要があるものと考えているからである。

当研究会は、小職にとって大きなコミュニティの場として存在している。発足30年の歴史ある中で、2006年に当時上司の付き添いで第1グループの定例研究会に参加したことをきっかけに、次の年には当該グループリーダーとして研究テーマを取りまとめることになった。原子力産業界で同じ品質保証分野を担っている研究員から得る考え方・情報が自社内のみでの取組みに対し、視野を広げ、視座を高くするだけではなく、異業種での品質マネジメントシステムとしての取組みの調査や当該関係者との交流から、原子力産業界としてありたい姿に繋がる、正に相互援助する刺激的なコミュニティの場としての存在である。

我々の祖先は、長年に渡る鎖国で日本文化を構築し、開国後150年ほど掛けて西洋文化(科学技術、政治経済、社会思想、文化等)を悪戦苦闘して我がモノとした最初の非西洋国であり、その西歐化の中であっても、培った伝統文化を保持、または時代に合わせて発展させてきた。日本の伝統として、自然との共生、足るを知る思想、調和を好む、先人(伝統)を大切にするDNAを引き継ぐ我々も、現状・近未来に向けての安全文化の醸成や自主的・持続的安全性向上等の課題に対し、

変わりつつある社会情勢に順応性が高く、更に工夫と発展させた品質マネジメントシステムの提案に貢献し続けていくべきと考える。

2019年12月に発症が確認された新型コロナウイルスの蔓延で、自動化の推進、人と直接接しない社会での生活化、会社に行かなくても仕事が可能なインフラ整備の加速等、人々の生活や働き方が大きく変わろうとしており、「個人社会」に拍車がかかると思われるが、この大切なコミュニティも、活動方法を臨機応変に追従させ35年、40年史と繋がる持続性あるものになることを強く願う。

II. 令和2年度定例研究会・各グループ活動実績

第1グループ(工藤リーダ)、第2グループ(氏田リーダ)ともコロナ禍環境のため、集合での研究会活動は実施出来なかったが、30年誌の編纂に注力した活動を実施した」

編集後記

(渡邊邦道さんの思い出)

そもそもの品質保証研究会の活動のきっかけは2013年2月7日の第1グループの研究会で渡邊邦道さんからお声掛けをいただいたことだった。気軽に幹事会に出席してみないかというようなお話だったと思うが、それに応えて3月22日、当時のMHI品川のオフィスに伺ったのが初の幹事会参加だったと記憶している。あれよあれよと会計幹事を拝命することになり、それ以来幹事としての活動をさせていただいている。

新卒から横須賀の原子燃料製造工場に勤務していた私にとって、当初の渡邊さんの立場は顧客の責任者、まあ言ってみれば非常に怖い存在だったようなことをうっすらと覚えている。そんななか、1999年のJCO臨界事故の際は土曜日に出社したところ、渡邊さんがなぜか当社の品質保証部の居家で作業をされていたのが印象的であったのと、事の重要性が身に染みたような記憶がある。

その後2000年の原子燃料ビジネスの統合により直接の上司となる縁があり、非常にお世話になった。その後は電力会社に転身されて、いつだったか電力さんとの品質関係の会合の時に以前に渡邊さんの部下だったこととお話したらその場の雰囲気が一気にほぐれたというようなこともあった。

品質保証研究会では第1グループの研究会ではいつも貴重な知見をいただき、また幹事および監事としても本当にお世話になりました。コロナ禍でなかなか直接お会いできる機会もなかったのですが、2020年度の会計監査を行うために2020年6月に浜松町の喫茶店で打ち合わせをさせていただいた。お元気なご様子で、仕事以外にも地元のボランティアの話なども拝聴したような記憶がある。

3月8日に突然舞い込んできた渡邊さんの訃報は3カ月近くが経過する今でも信じられない思いです。品質保証研究会のみならず原子力品質保証にとって貴重な人材が失われた事は大きな痛手ではありますが、30年にわたる品質保証研究会でのご活躍に感謝するとともに、安らかにお休みください。合掌

(編集:T.N)

以上